

1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

学校名	岡山県立倉敷天城中学校	実践者名	板野 正幸
教科等	数学	学年	第2学年
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 3
育成する 資質・能力	○ 情報編集力 ○ コミュニケーション能力		
単元・内容等	単元：平方根 内容：単元の始めにおいて、学習する内容がどのように役立つかを自分たちで調べ発表する（計4時間）		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	数学に限らず、課題のやりとり、スライドの作成、情報の共有等様々な授業の中で日常的に端末や各種アプリを活用している。		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
生徒がよく口にする「この内容を勉強して将来何の役に立つの?」という疑問から「学習する内容がどのように役立つかを自分たちで調べる」という課題を設定する。			
(1)単元の題名にもなっている「平方根」とはどんなものであるかを全体に説明する。その後、調べる内容を次の5つに設定し、班の中で1人1項目必ず調べるように分担する。 (調べる内容) ・根号って何? ・根号を含む式の計算方法 ・平方根の歴史 ・身の回りにある平方根 ・将来どんな場面（職業）で活用する?			
(2)自分が担当する項目についてインターネットや教科書、参考書などを用いて調べ、その内容をプリントに書き出し、その中でどの内容を発表するかを自分で判断し精選する。			
(3)同じ項目を調べている人をグループにして、自分が調べた内容について情報共有し（ジグソー法の活用）、自分が調べた内容と共有で得た情報をスライドにまとめる。			
(4)グループで一人ずつスライドを使って発表し、この単元で学習する内容やどのように役立つかを共有する。最後に、ワークシートを使って相互評価と振り返りをする。			
実践者の手ごたえ		児童生徒の振り返りや反応等	
ジグソー法を活用することによって、生徒に責任をもって取り組ませることができただけでなく、生徒自身も自分が調べた内容に自信をもつことができた様子がうかがえた。		(生徒の感想) 「自分が調べたことを他の班の人と共有ができたおかげで、自分が調べていたことが間違っていないことがわかり、新しいこともわかったのが良かった。」 「自分が調べた内容を自信をもって答えることができそう。予習の大切さがわかった。」	